

第 4 回吹田市市民自治推進委員会 会議録

1 日時

令和6年(2024年)7月11日(木)午後2時から午後3時まで

2 場所

吹田市役所 高層棟 4 階 特別会議室

3 出席者

(1) 委員

若月 剛史(委員長)、金井 隆典(副委員長)、奥谷 義信、河野 路利、雑部 麻美、
高原 新、西田 宗尚

(2) 事務局

市民自治推進室 中村部長、長井室長、浅倉参事、田中参事、加樂主幹、田毎主幹、
田家主査、廣澤主査

4 傍聴者

0 名

5 議題

(1) 令和6年度市民自治推進委員会のスケジュールについて

(2) 市民自治講演会について

(3) ICT を活用した市民参画及び地域コミュニティの活性化について

6 議事の要旨

別紙「議事のまとめ」のとおり

議事のまとめ

発言者	主な内容
委員長	第４回吹田市市民自治推進委員会を開会いたします。 初めに事務局から報告を受けます。よろしくお願いします。
事務局	会議の成立、傍聴者の報告。市民部長挨拶。
委員長	次第に従い、「令和６年度市民自治推進委員会のスケジュールについて」を議題といたします。事務局から資料の説明を受けます。
事務局	(資料説明)
委員長	説明のとおり進めたいと思います。御意見等がないようですので、次に「市民自治講演会について」を議題といたします。テーマは基本的には昨年度と同様に、地域コミュニティの活性化でございます。本日は各委員の皆様から、講師の方に講演会で取り上げてほしいこと、詳しくお聞きしたいことなどについて、順に御意見をお願いいたします。
副委員長	昨年 of 福留先生の講演は、後半のまちづくりの計画の立て方、交流から討議へ、そして討議からまちづくりへ、というようなところが、かけ足になってしまったと思います。参加者のアンケートを見てみると、その辺りに興味のある方も多いようですので、その辺りに焦点を当てて、お話してもらうという形が、同一の講師の方に連続してお願いするということの意味ではないかと思います。
A 委員	私には、行政が自治会の活性化について考えている施策が、自治会活動にうまく結びついているようには見えません。また、地域の諸団体が高齢化等により、参加しづらい状況の中、自治会だけを対象ということではいけないのかなとも思います。それと、自治会活動が低下する中で、地域防災といったことを誰が担っていけるのかということは非常に懸念されます。市として地域に対して何をすれば一番いいのかというのは、今後、考えていくべきだと考えています。福留先生のお話の中で、地域活性化についての具体的なことを御提案いただいて、我々がそれを参考にしながらやっていければいいのかなと思います。
B 委員	自治会の加入促進がゴールなのかなと思った時もあったのですが、昨年の講演会で、もう少し緩い繋がりもあることを知りました。自治会はあれもこれもと盛りだくさんというイメージがあり、自治会以外の緩い繋がりといったことも講演会で勉強させていただき、身近な人等に私自身も発信していきたいと思います。
C 委員	この委員会に参加させていただいて気づいたことは、市が自治会をととても大事にされているということです。自治会側としては大事にされていることに気づいていないので、そのことをもっとアピールしていただく機会があってもいいのではと思います。昨年の講演会では、再開発が大規模に行われている箕面船場と吹田市が違い過ぎて、どう吹田市に生かせばよいのかがわからず、現場としては、単一の自治会が解散したり、講演会の内容のレベルに達していないとも思うので、市の職員の方も参加されるということでしたら、そこから地域にフィードバックをしていただいてもよいのかなと思います。
D 委員	吹田市での再開発と言えば、既存の自治会等のコミュニティの中に、新しいマンションを中心とするコミュニティが別に誕生しているように思っていて、その新しいコミュニティと既存の自治会が分断されるのは、よくないと思うので、新しいコミュニティと古いコミュニティの人が、調和する方法に何か御見識があったら、伺いたいなと思いました。

E 委員	自治会だけですべてを賄うというのは、限界が来ていると思っています。ただ自治会も必要だと思うので、そこはそこで頑張る。商売をされているようなところ、他の活動をしている団体等色々な団体を融合させて、一つの地域のコミュニティにするところを考えていくにあたり、新旧のコミュニティを融合させたい気持ちはあります。具体的にその第一歩をどういうふうにしていくのかがいいのかわからないので、何か成功している事例等を紹介していただくような内容でお話をしていただければ、とてもいいのかなと思いました。
委員長	そもそも討議とは、どういうものなのかという具体的なイメージがよくわからなかったので、何か具体的な事例と、それを作り出すにあたってどういう混乱があったかなど、どのように環境を作ったうまくいったといった話をしていただきたいです。吹田市にも、どう適用できるのかということをお話していただければ、わかりやすいかなと思いました。
A 委員	福留先生の話と並行しながら、地域活性化について吹田で非常に先駆的な取り組みをしてる自治会を紹介するのもよいのではと思います。
副委員長	委員長も話された討議の問題というのが、古いコミュニティの中に新しいコミュニティができる時、両者をどう調和させられるのかということに関わってくる問題だと思います。緩い繋がりへ参加し、討議という形で地域活性化へ繋がるということなのですが、その具体的な話のところが、飛ばされてしまったという感じがします。討議のあり方を軸にすると、D 委員、E 委員の話されたことに関しては、一つ答えてもらえるのではないのでしょうか。あと、C 委員の話された自治会存亡の問題については、これまでは、自治会を構成する人々、市民の主体性、ガッツに期待する方法を言われていたのですが、今年の福留先生の話は、ガッツに期待するのではなく、自治的なコミュニティであっても、経済的な基盤があった上で初めてコミュニティは、ちゃんと回り得るのだということです。コミュニティに入ると何が得かをちゃんと示せるようじゃないと駄目だということです。 ただ、その得については、形がいろいろあって、金銭面とか経済面だけではないと思います。コミュニティを支えるためには、そういう意味での経済的なバックボーンが必要だということが見落とされがちです。だから、そこをちゃんと考えて議論をしなきゃいけないという指摘がありました。そのメリットをどうやって打ち出せるかということをやちゃんと考えないといけない。市民の自治なのだから、市民の主体性に賭けてというのは、なかなか難しいというのが今年の福留先生の話の一部だったと思います。
委員長	ありがとうございます。やはり次回は、具体的な事例を中心に、丁寧にお話しいただければ、吹田市の自治会等と繋がると思いますので、そういうことをお願いしたいと思いました。他に御意見がないようですので、次に移ります。では、「ICTを活用した市民参画及び地域コミュニティの活性化について」を議題といたします。事務局から資料の説明を受けます。
事務局	(資料説明)
委員長	ありがとうございました。今の説明に対して、何か御意見等はございますでしょうか。
副委員長	地域カルテの調査研究に関して、現時点でどれくらい進んでいるのでしょうか。
事務局	現在、ヒアリング対象の連合自治会を選定しているところです。
委員長	調査対象はどういった基準で選ばれるのですか。
事務局	まずは、やはり活動が活発なところを考えています。その中でも、全国では地域自治組織、住民自治組織といった自治会だけではなくて、他の地域諸団体やテーマ型の団体等と協働しながら運営しているところがあり、そういった実態に近いようなところをまず選定していると考えています。また、典型的な形の連合自治会の実態も調査したいと考えています。
副委員長	実態調査となるとやっぱりある程度網羅性が必要だと思いますが、吹田市内に 34 ある連

	合自治会すべてを調査することは難しいのでしょうか。
事務局	調査を行う主体が市民公益活動センター（ラコルタ）ですので、そちらと相談しながら、できるだけ多く、ヒアリングしていきたいと思います。
E 委員	34 の連合自治会ごとにすごく差があると思います。うまくいっていても、そのうまくいき方がまた違うと思うので、なかなか一つには、まとまらないかなと思います。また、そういう方向に向かっていこうと、まだ途中段階のところも結構あるかと思います。連合自治会から一回脱退した単一自治会が再加入してくれたという事例もあります。そして、個人でも一緒にやりたいと言って、祭りに参加してくれる方も、少なからずおられます。そういうことが行き渡って今までとは違う枠組みにしていければいいなと思っています。
A 委員	自治会の加入率が 50%を切っている実態の中で、この調査が効果的にできるのかなという懸念があります。これは提案ですが、視察に行かれる時、市の職員だけで行かれて、住民が参加していないということも問題として考えないといけないと思います。視察に行かれるなら、行っただけで終わらずに、視察先のプラス面を組み入れた具体的な施策を打ち出すことが大事だと思います。
事務局	地域コミュニティの醸成については、自治会だけでは限界があるということが、全庁的なコンセンサスを得られるようになってきて、どうやって新しい地域コミュニティを作っていくかということに対して、一歩踏み出したところです。調査研究だけが目的ではなく、調査後にはモデル事業としてワークショップなどを行い、できれば、そこから地域組織的なものにつながればという思いで、この調査をするに至っております。ただ一方で、自治会加入率も増やしていかなければいけないということで、一つの手法として、地域コミュニティアプリの導入についても検討中であり、現在、複数社のアプリを比較しております。
副委員長	アプリを導入した場合、運営主体は自治会になるのですか。また、そのアプリのメンバーとして参加するのは、自治会単位ですか。個別でも参加できるのですか。
事務局	アプリによって違いますけれども、吹田市民が加入可能で、さらにその中で自治会としてのグループを作るといったような形もできるものもあります。まだ、アプリの比較をしている段階なので、自治会の活動をどう補助できるかという視点を持ちながら、今年、視察に行くところも含めて検討しているところです。
委員長	さきほどの地域カルテの調査手法のところで、対象全部にアンケートで聞いてみて、その中の代表的なところにインタビューをするというやり方があるかと思います。連合自治会すべてにアンケートを送って回答してもらうというのは、結構難しいことなのではないでしょうか。
事務局	他の例でも、全自治会にアンケート取ったこともありますし、可能です。
委員長	そうすると、今、みなさんが危惧なさっていることは、大分解消されるかなと思いますので、御検討いただければと思います。
事務局	またラコルタとも相談して検討したいと思います。
委員長	他に何かございますでしょうか。ないようですので、次に移ります。次回開催日程でございますが、すでに事務局から説明がありましたとおり、11 月 14 日木曜日の講演会終了後となりますのでよろしくお願いいたします。それでは本日の委員会は閉会いたします。お疲れ様でした。ありがとうございました。

順に、A委員、B委員、C委員・・・と表記しています。